

消化管病変の形態学的極限を、現在、望みうる最高の視覚条件で提供し、その分析から病態の本質を明らかにすることを基本姿勢とする本誌において、どちらかというと種々の要因が複雑にからんだ胃粘膜防御機構なる現象を取り上げることにについては多くの批判があったが、紆余曲折を経て特集として日の目を見ることになった。既に、粘液物質、アルカリ分泌、粘膜血流、細胞回転、ならびに生理活性物質であるプロスタグランディンなどの動態についての追究が進み、その相互関係についても、徐々に解明されつつある。しかし、これらの要因は動物あるいはヒトにしても、急性の胃粘膜病変を場としたものであり、ヒトの慢性潰瘍との間に相当の隔たりのあることも常に指摘

されていることも事実である。

ただ、ヒトにおいても、当然、食餌、異物などの外的刺激ならびに酸・ペプシンなどの内的刺激に対抗して胃粘膜を防御しようとする機構があり、これが限局性疾患である潰瘍の病態とも決して無縁ではありえない。したがって、いたずらに試験管内での事象として放置するのではなく、これらの要因が肉眼視できないかとして、多くの試みがなされていることもある程度評価してもよいのではなかろうか？ 本特集では、各要因が見事に可視化され、情報として十分意味を持つものが提供されている。胃粘膜防御機構をこのような形で取り上げた最初の試みが決して無謀でないことを確信している。

胃と腸

12月号(第21巻・第12号) 予告

発売予定 12月2日
定 価 1,700円

特集／大腸の villous tumor

- 序 説** 大腸の villous tumor
—臨床が知りたいこと
福岡大筑紫病院・消 八 尾 恒 良
- 大腸の villous tumor
—病理組織学的立場から
筑波大・病理 中 村 恭 一
- 主 題** 大腸 villous tumor の問題点
駒込病院・病理 小 池 盛 雄
- 大腸 villous tumor の病理診断
新潟大・1 病理 味岡 洋一・他
- 大腸 villous tumor の病理診断
国立がんセンター・病理 廣田 映五・他
- 大腸 villous tumor の病理診断
松山日赤・病理 岩下 明德・他
- 大腸の villous tumor
順大・消内 松川 正明・他

- 大腸絨毛腫瘍(腺管絨毛腺腫)の形態的検討—特に小病変について
名大・2 内 芳野 純治・他
- 大腸絨毛腫瘍(腺腫・早期癌)の内視鏡的検討
東大医大・2 病理 長谷川かをり・他
- 大腸 villous tumor の診断
九大・2 内 飯田 三雄・他
- 大腸 villous tumor の治療と予後
癌研・外 高橋 孝・他
- 大腸の villous tumor—定義と治療
東大・1 外 武藤徹一郎・他

- 今月の症例** 肛門管より発生した malignant melanoma
癌研・内 丸山 雅一・他
- 初心者講座** 早期胃癌の見つけ方(12)
仙台市医療センター 望月 福治・他

(編集頁の都合で掲載論文が若干変更になることがあります。)

胃と腸(第21巻 第11号)

編 集 早期胃癌研究会
発 行 株式会社 医学書院
代 表 者 椿 孝雄
〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3
☎ 受付台 (03) 817-5600
本誌編集室直通 (03) 817-5714
販売部直通 (03) 817-5659

1986年11月25日発行(毎月25日発行)
1部定価1,700円(配送料80円)
年ごめ予約購読料19,080円(送料弊社負担)
FAX (03) 815-7802
振替口座 東京 7-96693 番
印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001
広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1986, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 長谷川・窪田・大竹